

# 浜松市における妊産婦の メンタルヘルスの実態 及び伴走型支援についての検討

浜松市中央健康づくりセンター（東） ○高田日向子  
浜名健康づくりセンター 榎田咲希 木内風花  
（担当講師 浜松医科大学 明神大也 先生）

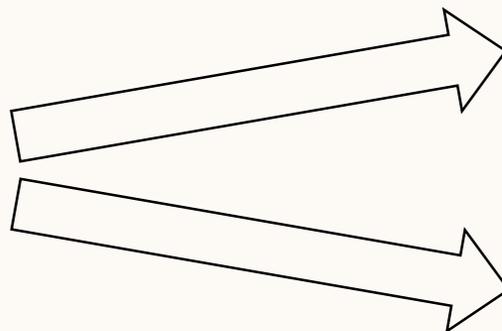
# 背景・目的

母子健康手帳交付時



ハイリスク因子なし

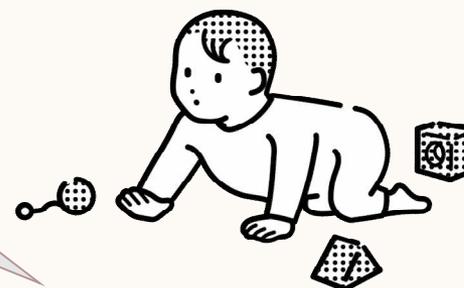
要支援と判断



妊婦訪問 (妊娠8か月頃)



EPDS高値



乳児家庭全戸訪問

妊産婦のメンタルヘルスの実態を明らかにしたい  
⇒ 妊娠期からの伴走型支援について検討する

# 対象者及び調査項目

## 1 対象者

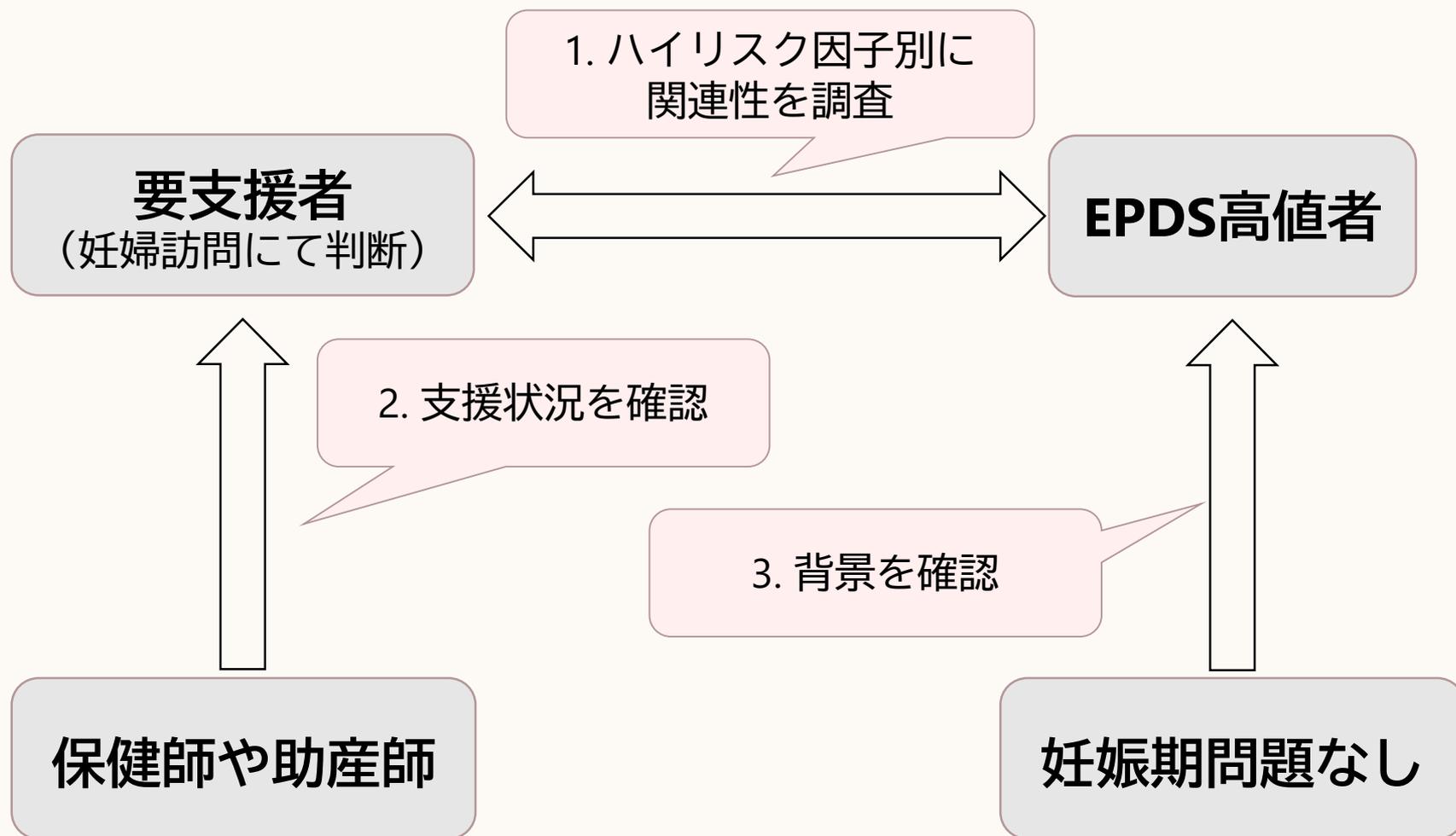
浜松市在住者で妊婦訪問を令和6年度に実施し、かつ、乳児家庭全戸訪問にてEPDSに回答した3,081名。

※ただし、母子健康手帳交付時に要支援と判断された者は除外した。

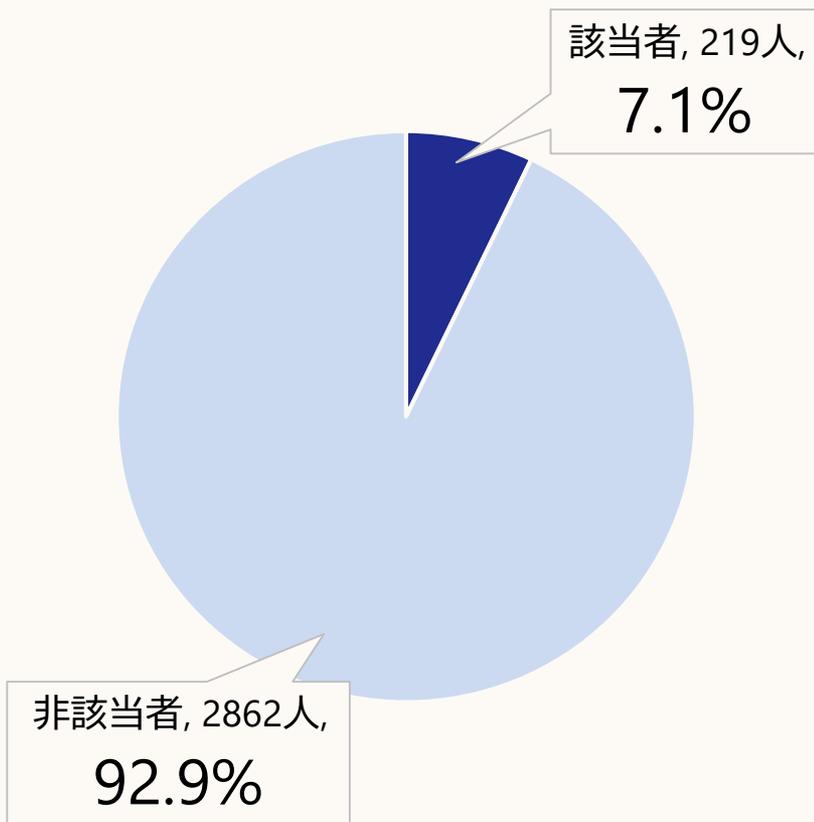
## 2 調査項目

- ・妊婦訪問結果
- ・乳児家庭全戸訪問で実施したEPDS及び支援状況

# 分析方法



# 結果(1)

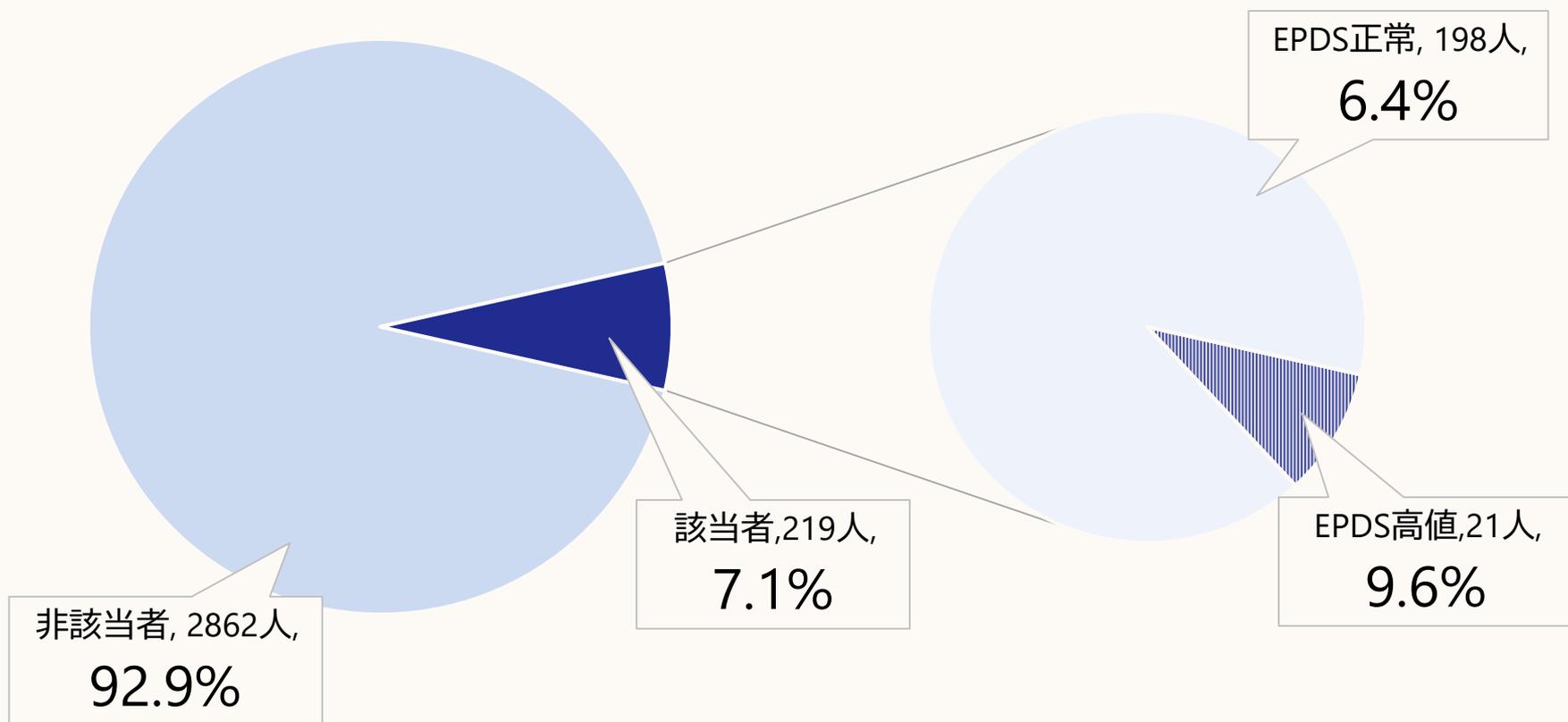


妊婦訪問にて  
要支援と判断された者の割合

ハイリスク因子の該当者の内訳  
※複数回答あり（因子2つ以上の者;50名）

ハイリスク因子の項目	人数(人)
①望まない妊娠	3以下
②メンタル既往	82
③経済的困窮	4
④管理できていない疾病	3以下
⑤養育支援者がいない	43
⑥虐待歴	3以下
⑦被虐待歴	3以下
⑧夫婦不和、DV	5
⑨養育	8
⑩転居	3以下
⑪複数回の婚姻	3以下
⑫二質問（うつ）に該当	77
⑬その他	48

## 結果(2)



要支援者219名の内、EPDS高値者は21名 (9.6%)

# 結果(3)

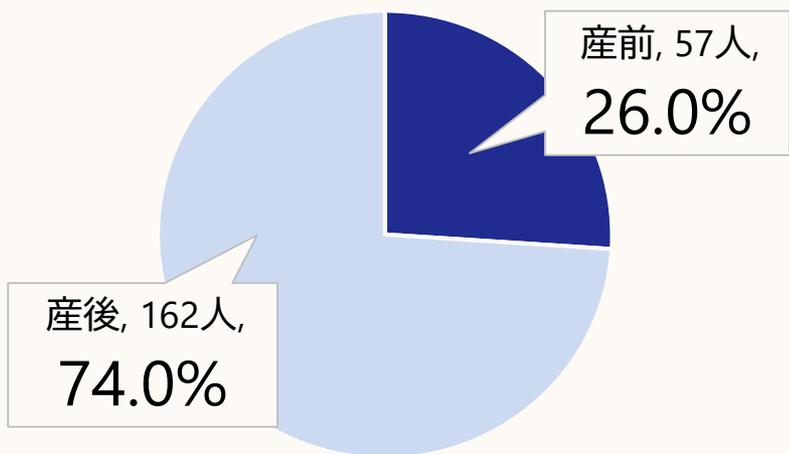
妊娠期ハイリスク因子とEPDS高値者との関連（有意差が見られた項目）

項目	EPDS高値		EPDS正常		p値	オッズ比	
	人数 (人)	割合 (%)	人数	割合			
うつ傾向 (二質問に該当)	あり	10	13.0	67	87.0	0.000*	5.60
	なし	78	2.6	2926	97.4		
メンタル既往	あり	7	8.5	75	91.5	0.001*	3.36
	なし	81	2.7	2918	97.3		
その他	あり	4	4.5	84	95.5	0.021*	3.19
	なし	44	1.5	2949	98.5		

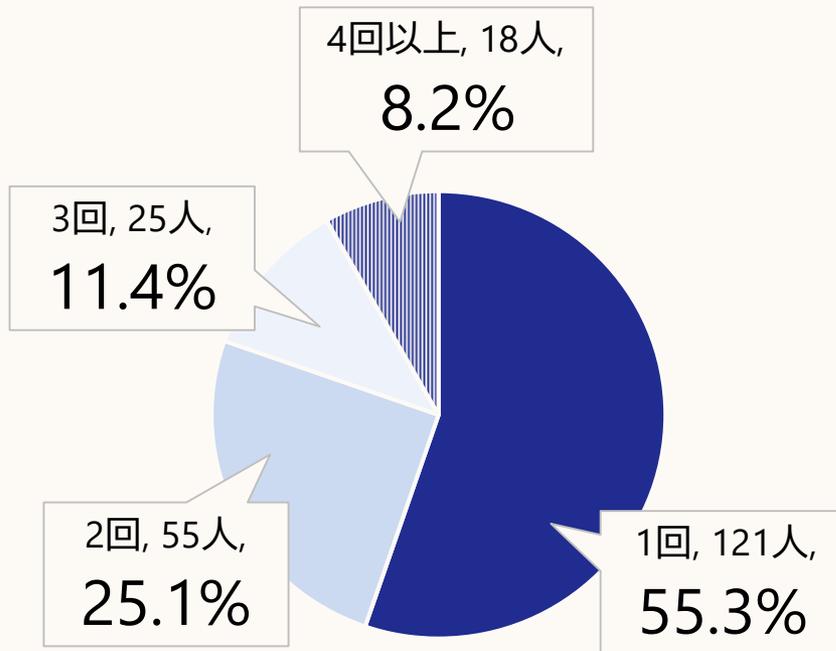
p<0.05

「妊婦の疾患」「夫のメンタル既往」「産後の養育が危惧される」  
「妊婦の性格」「きょうだいへの対応困難感」の順に多く挙げた。

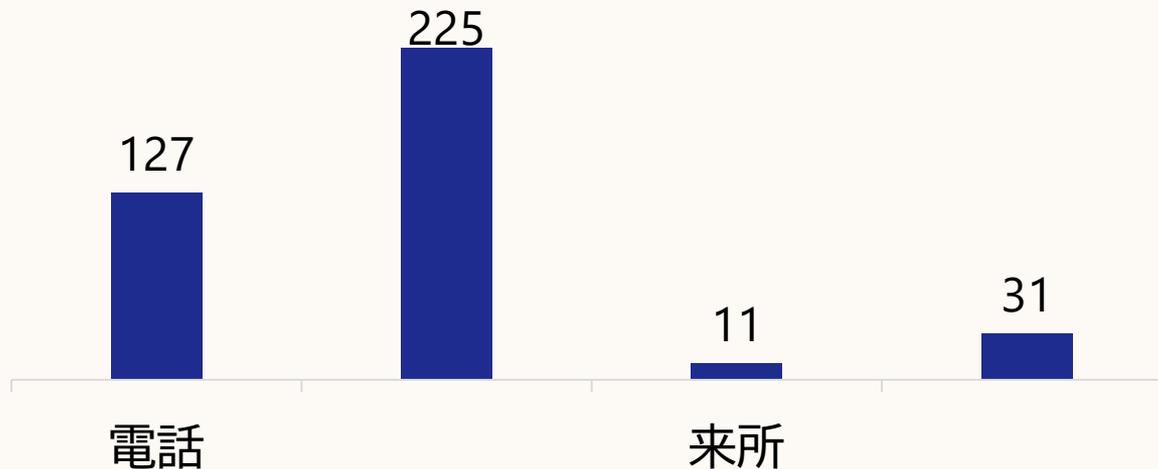
# 結果(4)



支援の開始時期



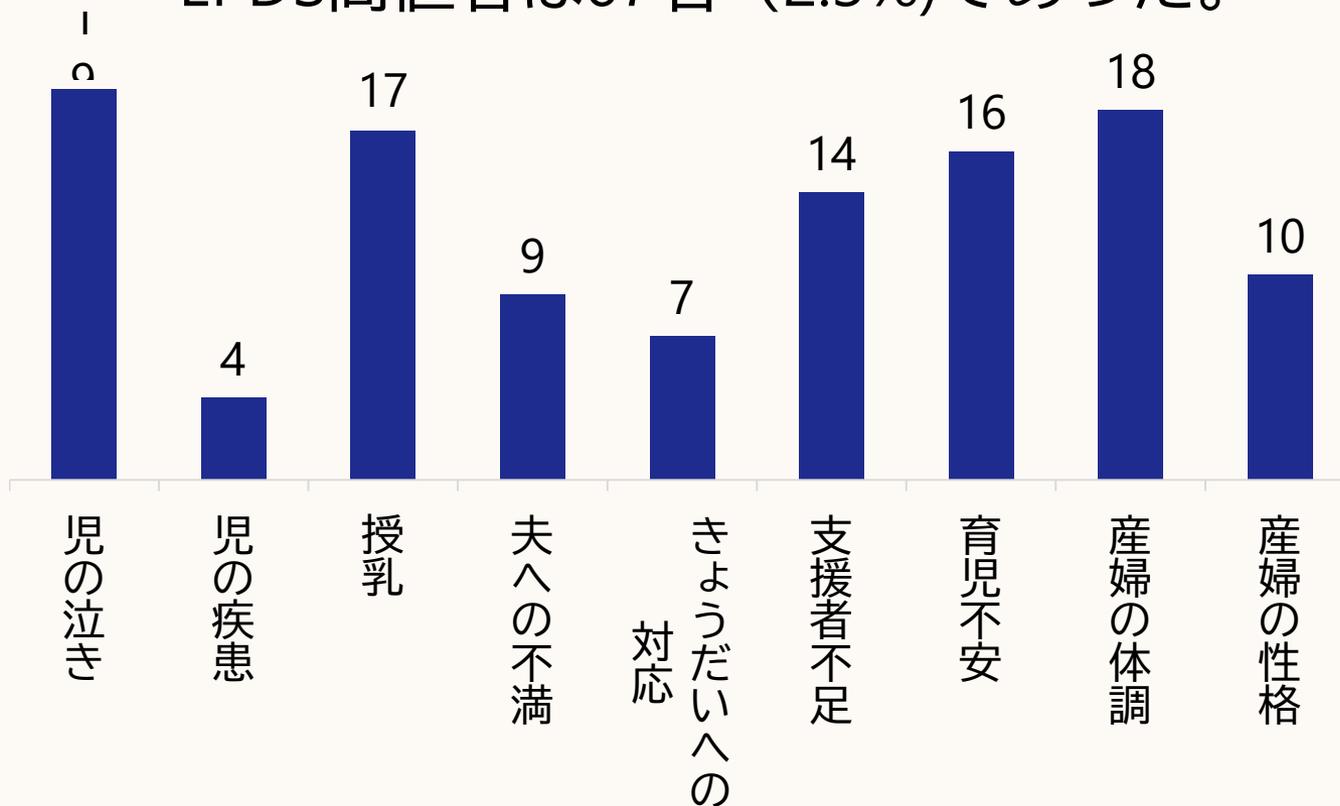
支援回数



支援方法別にみた件数

# 結果(5)

妊娠期に問題なしと判断された2,862名の内、  
EPDS高値者は67名 (2.3%)であった。



EPDS高値の背景 ※重複あり (人)

# 考察

妊娠期うつ傾向のある者  
メンタル既往該当者

EPDS  
高値

育児知識・技術不足  
サポート不足、産後の体調

○支援の方向性  
支援者個々の判断ではなく、  
多職種多機関と連携して支援体制を  
構築する必要がある。



- 妊婦が抱える課題や不安を多面的に捉える。
- 訪問を通じて信頼関係の構築が促進される。

- 適切な情報提供や子育て支援ひろば等への参加勧奨を行う。
- サポート体制の構築に向けて家族にも働きかけていく。

# 望まれる支援

妊娠期からの  
適切なスクリーニングと早期介入

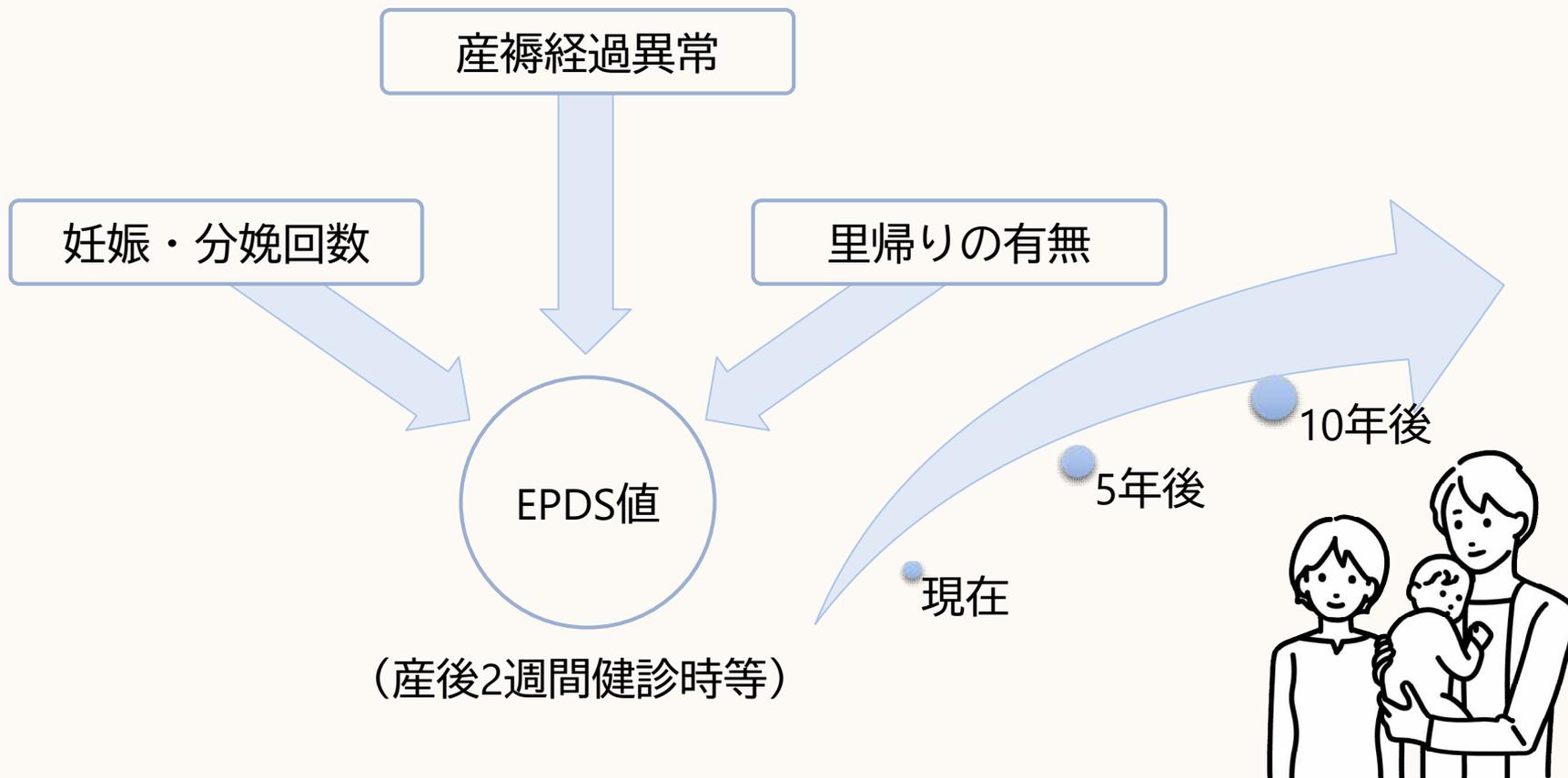
家族を含めて育児のイメージを具体的に  
持てるような働きかけ

多職種多機関との連携（支援体制構築）



# 今後の展望

多角的に分析し長期的な傾向を捉えていきたい



ご清聴ありがとうございました



©浜松市